慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	古版経済書解題 一千七百五十七年マラッカイ・ポストルスウエイト著 大不列の真体制
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1938
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.32, No.7 (1938. 7) ,p.983(125)- 991(133)
JaLC DOI	10.14991/001.19380701-0125
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19380701-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

カッセルは貨幣理論を重要視し、之をば彼の價値學説無用論及び價格理論の根柢に置いた。然し彼の貨幣論は決して滿足なものではない。彼の價格理論の明確さに比して著しく見劣がする。我々はかゝる貨幣價値決定論に於て、財の價値を測定する手段としての貨幣の價値が如何にして決定されるか、及び財の價格を絶對的水準に確定する貨幣單位が如何にして決定されるかの問題が充分答へられたと、認めることは出來ない。

（註61）Amonn, a. a. O. s. 333

以　上

古版經濟書解題

一千七百五十七年版マラッカイ・ポストルスウェイト著

『大不列顛の眞體制』

高橋誠一郎

一

マラッカイ・ポストルスウェイト(Malachy Postlethwayt)の生涯に就いては殆んど何物も知られてゐない。彼れの生れたのは恐らく一千七百十七年であつたらうと想像せられる。(Alexander Chalmers, The General Biographical Dictionary, 1816, XXV, 219.)彼れは「倫敦市の有名なる一商人」と提携し、英蘭の北部に於いて、鉛製品工業に携はつたのであるが、鎔解及び精錬に關して、不埒なる似而非專門化學者の意見に過られて、建築及び設備に巨額の資本を投じ、多大なる損失を蒙れるに懲りて、自ら化學の理論及び實地應用を研究せんことを志し、長く之れを廢することがなかつた。(Postlethwayt, The Universal Dictionary of Trade and Commerce, 1751, vol. I, p. 487.)彼れは其の「本領及び業務」を以つて研究に在りと做し、學問及び文筆的奉仕に其の生涯を捧げた。(Postlethwayt, Great-Britain's True System, 1757, pp. xl, xli, lxiv.)彼れは年二十七にして好古協會員に擧げられた。彼れは一千七百六十七年九月十三日を以つて急死し、(The Gentleman's Magazine, xxxvii, p. 479.)オールドストリートの

墓地に葬られた。(Chalmers, op. cit.)。

11

ポストルスウェイトが二十年餘の研究の成果たる大著は『商業總辭典』(The Universal Dictionary of Trade and Commerce.)である。本書は倫敦に於いて一千七百五十一年に初版を、六十六年に第三版を、七十四年に第四版を出してゐる。此の書は佛蘭西に於いて出版せられた Dictionnaire universel de commerce, d'histoire naturelle, d'arts et métiers. を基とし、其の大部分を翻譯せるものである。此の佛國辭典は大部分、巴里稅關檢査總監ジャック・サヴァリイ(Jacques Savary des Brulons 若しくは Brulons)の手に成つたものであるが、彼れは其の完成を見ずして一千七百十六年を以つて逝き、其の兄サン・モール(St. Maur)の僧ルイ・ヒレモン・サヴァリイ師(Abbé Louis Philémon Savary)が弟の遺業を引き續いて之れを成就し、一千七百二十三年、二ツ折判二卷を出版し、次いで一千七百三十年、第三卷として其の補遺を公にした。本辭典は爾後、若干の變更と多數の補遺的備考とを加へて其の版を重ね、一千七百二十六—三十二年には四卷本として、同四十一年には三卷本として、同四十八—五十年には三卷本として、同五十九年には五卷本として出版せられた外、一千七百二十六—三十二年のアムステルダム版四卷、五十二年の「デュネーヴ及び巴里」版と稱するもの五卷、五十九—六十六年のコペンハーゲン版五卷等が行はれてゐる。

先づ一千七百四十九年、倫敦に於いて A Dissertation on the Plan, Use, and Importance of the Universal Dictionary of Trade and Commerce, translated from the French of the late Monsieur Savary with Additions. と題する書が出版せられ、次いで、英國に於ける最初の商業辭典たる前揭書の上梓を見たのであるが、而も、ポストルスウェイトは單なる翻譯者たることを以つて滿足するものではなかつた。ジョンソン博士(E. A. J. Johnson)は

GREAT-BRITAIN's

TRUE SYSTEM:

Wherein is clearly shewn,

I. That an Increase of the PUBLIC DEBTS and TAXES must, in a few Years, prove the Ruin of the *Monied*, the *Trading*, and the *Landed Interests*.

II. The Neceſſity of raiſing the SUPPLIES to carry on War, *within the Year*.

III. That ſuch a Deſign, however ſeemingly difficult, is very practicable; With a Sketch of various *Schemes* for that Purpoſe.

IV. An EXPEDIENT which will ſupport the *public Credit*, in all Times of public Diſtreſs and Danger.

To which is prefixed,

An Introduction, relative to the forming a NEW PLAN of BRITISH POLITICKS, with Reſpect to our FOREIGN AFFAIRS, and our Connections on the CONTINENT.

Humbly ſubmitted to the Conſideration of all the GREAT MEN, IN and OUT of Power.

By *MALACHY POSTLETHWAYT*, Eſq;

LONDON:

Printed for A. MILLAR, in the *Strand*; J. WHISTON, and B. WHITE, and W. SANDBY, in *Fleet-ſtreet*.

MDCCLVII.

其の近業 Predecessors of Adam Smith, 1937. の第二附錄に於ても是れ等兩辭典の比較を行つてゐる。(ibid., pp. 402-404.)。

ポストルスウイトは辭典刊行以前 The African Trade the Great Pillar and Support of the British Plantation Trade in Africa, 1745. The National and Private Advantages of the African Trade considered, 1746. Considerations on the making of Bar Iron with Pit or Sea Coal Fire, 1747. Considerations on the Revival of the Royal British Assiento... with an attemt to unite the African Trade to that of the South-Sea Company, by Act of Parliament, 1749. 並びに倫敦商人ジヤーメス・ロイストン(James Royston)との共著 The British Mercantile Academy: or the Accomplished Merchant, 1750.(別と同じく一千七百五十年の著に The Merchant's Public Counting House, or, New Mercantile Institution. と題するものがあるやうに傳へられてゐる)等の諸著を出版して居つたのであるが、更らに同辭典の第二卷が一千七百五十五年に公にせられて後、Great-Britain's True System, 1757. 及び Britain's Commercial Interest Explained and Improved, 1757. の二著が上梓せられた。吾人が茲に其の表題頁を掲げて、聊か其の內容を紹介せんとするものは是れ等兩著中の前者である。本書は一千七百五十七年版と記されてゐるが、ジョンソン博士は一千七百五十七年一月に發行せられた The Universal Magazine of Knowledge and Pleasure. の一千七百五十六年度分に對する補遺が本書の抜萃を載せ、而して同誌一千七百五十七年一月號が彼れの書に關說して之れを非難せるに徵して、(ibid., xix, pp. 277-302; xx, pp. 7-13.)、本書の出版が一千七百五十六年內であつたことを推定してゐる。(Johnson, op. cit., p. 357.)。

三

此の書が伊太利亞の經濟學者コッサ(Luigi Cossa)によつて、二箇年以前に公にせられたるリチャード・カンチロンの著 Essai sur la Nature du Commerce en Général. よりの轉寫に過ぎざるものと稱せられた事は周く人の知る所であらう。(Cossa, An Introduction to the Study of Political Economy, trans. by L. Dyer, 1893, p. 252.)。ポストルスウェイトが、カンチロンの著の出版に先立ち、前揭一千七百四十九年の A Dissertation on the Plan, Use and Importance of the Universal Dictionary of Trade and Commerce. 中に於いて凡そ其の六千語を收錄し、次いで其の The Universal Dictionary. 中に於ける幾多の項目中に同書よりの抜萃を包含せしめ、更らにカンチロンの著の佛譯が一千七百五十五年に出版せられて後に公にせられた本書中にも其の一定部分を無斷に取り入れてゐることは事實である。而も、彼れに取つて百八十年後の知己たるジョンソン博士は、此の著の周到なる檢討は、カンチロンよりの抜萃が、玄妙神秘なるリチャード・カンチロンの一般理論よりも、サー・マシュウ・デッカーによつて發達せしめられた對策に對して遙かに密接なる關係に立つ推理の連系を支持するが爲めに使用せられたることを明かならしむると說き、本書がカンチロンの著の單なる「轉寫」に非ずして、デッカー、カンチロン、ロック、グヴェナント、フォルボンネイ及びヒューム等の著作の諸部分を結合せんとするの努力であり、又、刻下の財政問題に對して這般の理論的寄木細工を適用せんとするの企圖であつたと論じてゐる。(Johnson, op. cit., pp. 190, 195.)。

四

當時英國は佛國と戰を交へて居つた。著者は先づ百五十頁より成る其の序論に於いて、過去に於ける英國の對外政策が十分に佛蘭西をして將來英國を惱まし若しくは歐洲の安寧を攪亂するの力なきに至らしむるに足らざるものと觀じ、佛蘭西及び其の盟邦の方策を破り、而して光榮ある永續的平和を促進するが爲めに、英國對外政策上の新計

畫を構成せんことを企圖する。(Great Britain's True System, 1757, pp. i-cl.)。次いで彼れは十四篇の書翰より成る其の本文に於いて、當さに英國の採る可き新對內政策に就いて論ずる。彼れは國家をして更らに是れ以上に債務を帶び、斯くて又、國稅を增加することなくして、年內に國費を調達するの必要及び實行可能を論證せんとする。

彼れは先づ公債の增發によつて國費を調達するの政策を考察し、其の有害なる影響を論述する。公債の增加は或る程度まで之れに比例して租稅を增加せしめざるを得ない。租稅の增加は又、必然輸出品の價格を引上げなければならぬ。斯くして英國は愈々益々其の享有する外國貿易のあらゆる部門に於いて自國を推し除くるの機會を其の强大なる競敵に與へ、遂には、公債所有者が彼れ等の年賦金其の者を引出す可き富の泉源は干上がるに至る可きである。(ibid., p. 12.)。國家が債務を帶ぶること愈々大なれば、愈々多くの貨幣は公債に閉ぢ込められ、而して貿易に使用せらるゝもの愈々國內に少なきに至る可きである。是れに由つて全商業機關の運轉を持續する這般の流通資產の適當なる分前を缺くが爲めに、交易は必然防害せられ、沈滯せしめられざるを得ない。(ibid., p. 20.)。彼れ曰く、「我が交易の大害は我が貨物の高價なることである。而して、我が負債及び租稅の增加は尙ほ一層是れ等のものゝ價格を騰貴せしめなければならないのではないか。而して、そは終に我が全商業の破滅を立證せざるを得ないのではないか。我が交易の苦難を輕減し、而して其の全部的破壞を防止するが爲めに、吾人は如何にしても我が負債及び租稅より免れなければならぬのではないか」と。(ibid., p. 48.)。

著者は公債が紙幣と等しき作用を爲し、總べての物價を騰貴せしむるものと觀る。國內所得の增加は奢侈の風潮を誘起し、殊に外國產奢侈品の消費を增加せしむるの傾向がある。彼れ曰く「斯くて奢侈的外國貨物は一層容易に消費せらる可く、而して眞の富の殘部を拉し去る可きである。然るに、自國の貨物は法外なる價格に引き上げらるゝが故に、是れ等のものが他國民の貨物の競爭を受くる時は、海外に販路を求むること甚だしく困難と爲る可きである」と。(ibid., p. 104.)。

彼れは勞働を以つてあらゆる人が其の能ふ限り低廉に購入す可き貨物として看做され得可きものと觀、一日の勞働の價格は少くとも一日の生存費たる可しと做し、而して、一日の必要品たる食料及び被服が僅少の價格を以つて購入せらるゝ所に於いては、賃銀は低かる可く、換言すれば、勞働は廉なる可きであると說く。(ibid., p. 144.)。而して彼れは自然の諸原理よりして、勞働の價格を確むるが爲めに、其の著の一四八頁より一五三頁に亙つて、ウィリアム・スタンリー・ジェヴォンズが其の Richard Cantillon and the Nationality of Political Economy. (Contemporary Review, January 1881.) に於いて指摘せるが如く、リチャード・カンチロンの『商業一般の本質論』の第十一章「土地及び勞働の價値間の等價及び關係に就いて」を僅少の省略を施して翻譯するの擧に出でてゐる。(cf., Cantillon, Essai, 1775, p. 40-55.)。

而して、彼れは勞働の一般的價格が其の自然的標準以上に奔騰し、斯くて又、其の競爭國に於ける以上に人爲的價値が自國の農產物及び製造品に附加せられた際には、其の國は貿易上に於ける領域を喪失し、從つて又、遂からずして破滅を免れ得ざるものと論結する。而して斯くの如き自國貨物に對する價値の附加は專ら自國の租稅が賦課せられ增加せらるゝに由つて生ずる。(Postlethwayt, p. 158.)。

消費稅は必然、惟り勞働及び細工の代價より生ぜしめらるゝ諸貨物の自然的價値の外に、更らに是れ等のものに人爲的價値を附加するに由つて、其の價格を引上ぐるが故に、斯くの如き租稅にして增加を續くるならば、外國人が英國貨物の購入に由つて支拂ふものと想像せらるゝ其の部分は、英國輸出品の減少よりして之れに比例して減少

す可きであらう。(ibid., p. 160.)。「交易に對する我が租稅の重荷は、我が競敵が我が商業の至要部門の大多數に於いて、外國市場に在つて、吾人を推し除けた大原因であつた。そは先づ佛蘭西を奬勵して羊毛工業に於いて吾人と競爭するに至らしめたのみならず、獨逸及び瑞西に於いても亦、製造心を喚起せしめ、そは當だに波蘭、普魯西、丁抹、瑞典及び露西亞のみならず、伊太利亞及び、久しく製造業に於ける懶惰と不活潑との爲めに非難せられて居つた西班牙の如きにすら延長した、而して、惟り然るのみならず、吾人の聞く所にして誤りなくんば、西班牙は自國船舶によつて自動貿易を遂行せんとしてゐる、そは海員の養成所たるに至る可く、又、彼れ等をして彼れ等が現在其の貨物を自己の船腹に積んで彼れ等に齎す諸國民に支拂ふ運賃を節約せしむ可きである」。(ibid., pp. 183-184.)。

公債の增加は又、必然投機心を誘發しなければならぬ。「是れ等の公債が吾人の上に增加すること愈々多ければ、我が證券取引は愈々一般的と爲る可きである」。(ibid., p. 212.)。ポストルスウェイトは正金の增加による健全なる價格騰貴と紙幣若しくは公債の增發による惡性のインフレーションとの間に區別を設ける。國內に齎さるゝ正金に準じて、諸物價は騰貴す可きであるが、而も正金の流入が徐々であり不斷であるならば、諸物價の騰貴は生產者の競爭を增加す可く、所要の貨物は日增しに豐富と爲り、而して這般の豐富は其の增加せる價格の一部を緩和し、他の一部は不知の間に是れ等のものに於ける勞作、製造及び取引に關與せる總べての者の間に分割せられて、其の利潤の中より取り出さるゝのである。(ibid., p. 236.)。

著者は啻だに公債及び租稅の增加が數年內に齎す可き破壞的の結果を論證するに止らず、之れに代くて、年內に戰費を供給するの方法を提唱するものである。戰時を越えて長く繼續せらるゝことのない「暫時的」負擔が公共に對し每月賦課せられて、海陸軍其の他あらゆる方面に於ける政府の請負人及び商人に支拂はるゝならば、徵收せられたる金は急速に公流通の一般的水路に復歸す可く、斯くて又、自國の商業及び其の他の取引に於けるあらゆる停滯不振を防止す可きである。是れに由つて、國民は、單に戰時公債の利子を支拂ふが爲めにのみ賦課せられなければならぬ總べての「永續的」租稅から絕對に免除せらるゝを得可きである。(ibid., p. 314; cf., p. 28.)。

ジョンソン博士の指摘するが如く、斯くの如き提案も、ボストルスウェイトの創意に係るものではなく、サー・マシュー・デッカーの Serious Considerations on the several high duties which the Nation in general, as well as Trade in particular, labours under, etc., with a proposal for preventing the removing of goods, discharging the trader from any search, and raising all the Publick Supplies by one single tax, 1743. 及びフランシス・フークイア(Francis Fauquier) の An Essay on Ways and Means of raising money for the support of the present war without increasing the Public Debts, 1756. の傳統を傳ふるものである。